産業人クラブだより ―かけはし―

産業人烈伝

開発はアイデアが勝負

京葉サンビーム・内田辰三郎社長 ㊤

栃木県小山市でプラスチックのブロー成形やシート成形などの加工品を手がけている。主力は内装やバッテリーカバーなどの自動車部品で、農業機械や住宅関連の商品も手がけている。しかし、コストダウンや生産改善への要求は厳しくなる一方。10年ほど前から「このままではいけない」と思うようになった。そこで始めたのが、自社製品の開発だった。

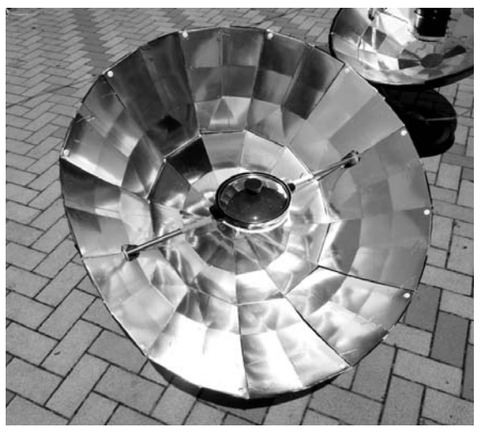
目を引く色や輪を付けて紛失しにくくしたゴルフティー「みつかる君」、足や手のひらのツボマッサージ器、カゴ台車向けの屋根「雨にも負けず」、ヘッドをカエルやパンダの顔にしてスイングの向きを確認しやすくしたゴルフ練習器具…。これまでに開発した商品は数多い。

近年、注目しているのは災害対策商品だ。2012年秋にプラスチック成形技術を生かし、津波の際の避難用浮輪を発売した。現在は洪水や津波の際、複数の人がつかまって逃げられる道具などを開発している。近隣の小学校の教員に話をしたところ、「役に立てば」と備品を貸してくれた。8月末までには形にしたい。たくさんの構想を描いている。最近はインターネットで見たニュースをヒントに消火グッズの開発も思いついた。アイデアの源は世の中にあふれている。

当社の知名度を上げたのが、太陽光を用いる調理器「ロータス」だ。反射板を貼り合わせておわん状とし、その中心に太陽光の熱を集めて食べ物を温める仕組み。開発のきっかけは05年9月の栃木産業人クラブと日本機械学会栃木ブロックの交流会で、足利工業大学の中條祐一教授によるソーラーエネルギーの身近な活用法をテーマにした講演を聞いたことだった。

講演後の懇親会で中條教授に「私は栃木県小山市で京葉〝サンビーム〟という会社を経営しており、プラスチックの成形を手がけています」と話したら、「頼みたいことがある」と言われた。詳しく聞くと「太陽光を使った調理器具を形にしたい」とのことだった。09年に製品化にこぎ着けた。

被災地などでも太陽光があれば火を使わずに料理できる。火災のリスクが低い点も魅力だ。ただ当社製以外の太陽光調理器もあるので、差別化できる点をアピールする必要がある。これからも改良を重ねたい。（全3回）



足利工大と共同開発した太陽光調理器「ロータス」

トップインタビュー

イースタン技研（神奈川産業人クラブ）河西　正彦 氏

複合加工技術を強化

放電加工関連事業 来年、山形に新工場棟

神奈川産業人クラブのイースタン技研（神奈川県大和市、046・268・3141）は、放電加工関連事業が主力だ。2008年に放電加工機向けフィルター、電気絶縁材料、電気接点の3社を相次いで子会社化し、買収先との融和を図りながら、各専門分野の技術を深耕する〝複合技術〟の研究に努めてきた。河西正彦社長に現状や今後の展開などを聞いた。

（横浜・日原将希）

◇

―足元の景況感は。

「安倍晋三政権の経済政策『アベノミクス』効果を受けて業績が上向いている。放電加工機や周辺機械など、全体的に前月比5―10%の売り上げ増で推移している。消費増税もあまり受注に影響しなかったように感じる。ただ、一方で人手不足感が顕著になってきた。

かわにし・まさひこ　69年（昭44）東海大院工学研究科機械工学修士課程修了、72年レグセル工業（現イースタン技研）入社。同年社長就任。東京都出身、71歳。

―神奈川県内では人材を集めるのが難しくなっている」

―山形工場（山形県遊佐町）に増産投資する計画ですね。

「既存工場に接する形で1500平方㍍の建屋の増設を検討している。15年4月に着工し、同年9月の完成を目指している。これにより、建屋面積が合計で2000平方㍍近くになる見込みだ。合金やフィルター、電気接点などのすべての製品を増産する。この計画は08年秋のリーマン・ショック前に検討し、延期していた。だが増産しないと間に合わなくなっているため、踏み切ることにした」

―08年に買収した鈴木接点工業は事業改善が鮮明ですね。

「イースタン技研の管理手法を導入し、生産性や遅延率、クレーム数といった業務内容をすべて数字で見える化した。月例業務会議で数値を報告させているほか、全社員が問題点を共有できるように経過状況をまとめた表を工場の壁に貼りだしている。こうした取り組みにより、例えば十数%あった不良率が0・1%近くまで下がった。収益も上向いている。今は0・01%以下を目指している」

―人材育成にはどう取り組んでいますか。

「工業高専から13年に2人、14年に3人を採用した。特に金型製作の担当は若手が少ないため、育成する必要がある。湘南事業所（神奈川県大和市）にトレーニング用のマシニングセンターを3台導入する計画で、これで金型や治工具を製造する技術を磨かせたい。当社は金型部門やメカトロ部門、合金部門、電気接点部門などが連携を図り、複合加工技術を強化している。中でも金型技術を大切にしている。これからも金型の設計・製作を通したモノづくりにこだわる」

小さくても本物

茨城ジェネシス　用途別の測定装置開発

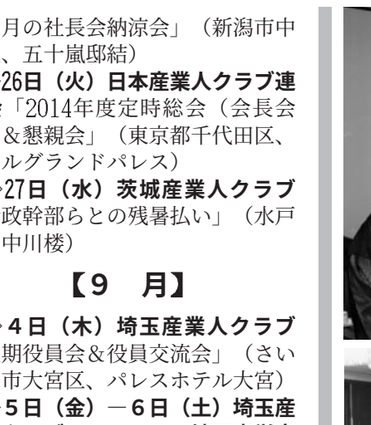
茨城産業人クラブのジェネシス（茨城県那珂市、矢ノ倉敏巳社長、029・352・0201）は、2001年にインクジェットヘッドの特性を測定する自動測定装置の初号機を投入以来、用途ごとに異なる測定装置を開発している。矢ノ倉社長は「測定装置用に開発したインクジェットヘッド用コントローラーの出来が良かったので、08年から外販を始めた」と振り返る。

通常、印刷に使用するインクジェットプリンターは紙とインクの種類が決まっている。印刷物の表面は平面だ。一方、産業用機器に搭載するインクジェットはインクが多様で、対象の表面も平らとは限らない。このためインクジェットヘッドを制御するコントローラーが重要になってくる。

量産用機器の場合、コンベヤーラインとの同期も求められる。矢ノ倉社長は「産業用インクジェットプリンターは、インクとヘッド、制御、メカの四つがそろわないとうまくいかない」と強調する。

ユーザーの用途相談から設計、完成まで一貫対応。最近はクッキー量産ラインに取り付けるインクジェットヘッド用コントローラーを開発した。インクは野菜や穀物粉末などを用いた可食用で、絵柄を1枚ずつ変えられる。こうした開発力が評価されており、インクジェット関連が売上高の約6割を占めている。

インクジェットヘッドを制御するコントローラーの基板



トピックス

大分 大倉菓機　具材を壊さず定量充填

大分産業人クラブの大倉菓機（大分県別府市、大倉一泰社長、0977・21・6363）は、製菓製パン機械メーカー。7月に「ロボシリンダタッチパネル式ピストン充填機DS―3＝写真」を発売した。肉ミソなどの具材を壊さずに定量充填（じゅうてん）できる。

充填機の本体は幅800㍉×奥行き280㍉×高さ300㍉㍍。価格は210万円（消費税抜き）。操作はタッチパネル式で、充填容量は最大1100㍉㍑。従来機のエアコンプレッサーをなくし、ロボシリンダーを採用した。これによって騒音がなくなり、消費電力を抑えて省エネ性能を高めた。

5月にマリンメッセ福岡（福岡市博多区）で開催された「第24回西日本食品産業創造展2014」（日刊工業新聞社主催）に出展した。現在は引き合いがあった来場者を中心に商談を進めている。

こうした中、大倉崇史専務は「充填機の小型化や洗浄面では競合他社に負けていない」と手応えを感じる一方、「顧客ニーズに応じた口金の種類が少なかった」との課題も見えてきた。

これからは顧客のかゆいところに手が届く選ばれるメーカーを目指し、「機器に付属するオプションも充実させる」（大倉専務）と意気込む。先頭に立って受注を獲得する気合は十分だ。

8―9月の予定

【8　月】

◇4日（月）埼玉産業人クラブ「東部地区経済講演会ｉｎ越谷『大森機械のグローバル戦略・人づくり』講師／大森利夫大森機械工業社長、『中核市実現に向けた取り組み』講師／高橋努越谷市長」（埼玉県越谷市、越谷コミュニティーセンター）

◇4日（月）山形産業人クラブ「2014年度定時総会＆山形県知事を囲む産官懇談会」（山形市、パレスグランデール）

◇5日（火）東京産業人クラブ・東京産学交流会「8月定例会『腹落ちして本気で行動する組織の創り方』講師／平尾貴治シー・シー・アイ取締役」（東京都大田区、蒲田月村ビル）

◇6日（水）埼玉産業人クラブ「分科会『埼玉県の産業労働政策について』講師／山中融埼玉県産業労働部長」（さいたま市浦和区、日刊工業新聞社さいたま総局会議室）

◇7日（木）東京産業人クラブ「会員企業訪問シリーズ第2回　オリエンタルエンヂニアリング見学会＆懇親会」（埼玉県川越市）

◇19日（火）掛川産業人クラブ「勉強会『医療分野参入に向けて』講師／橋本秀比呂協同組合ハミング理事長（橋本螺子社長）」（静岡県掛川市、榛葉鉄工所本社）

◇21日（木）埼玉産業人クラブ「『ものづくり企業経営革新ｉｎ川口』講師／奥ノ木信夫川口市長」（埼玉県川口市、川口商工会議所会議室）

◇22日（金）新潟産業人クラブ「8月の社長会納涼会」（新潟市中央区、五十嵐邸結）

◇26日（火）日本産業人クラブ連合会「2014年度定時総会（会長会議）＆懇親会」（東京都千代田区、ホテルグランドパレス）

◇27日（水）茨城産業人クラブ「行政幹部らとの残暑払い」（水戸市、中川楼）

【9　月】

◇4日（木）埼玉産業人クラブ「上期役員会＆役員交流会」（さいたま市大宮区、パレスホテル大宮）

◇5日（金）―6日（土）埼玉産業人クラブ・NITEC埼玉産学交流会「1泊研修懇親会＆親睦ゴルフコンペ」（静岡県熱海市、山木旅館、かんなみスプリングカントリークラブ）

◇10日（水）新潟産業人クラブ「2014年度定時総会＆創立30周年記念講演会『現下の世界経済と日本』講師／古澤満宏内閣官房参与、記念懇親パーティー」（新潟市中央区、新潟グランドホテル）

◇17日（水）東京産業人クラブ「会員企業訪問シリーズ第3回　コアクラウドセンター見学会＆懇親会」（川崎市）

◇17日（水）大阪産業人クラブ青年部会「産業技術総合研究所関西センター見学会」（大阪府池田市）

◇18日（木）九州・山口産業人クラブ「9月度工場見学会」（TOTO小倉第一工場・歴史資料館、白島国家石油備蓄基地展示館）

◇20日（土）東日本地域産業人クラブ合同「地域間交流ゴルフコンペ」（茨城県笠間市、宍戸ヒルズカントリークラブ）

リーダーに性別関係ない

野村信託銀 眞保社長が講演

東京産業人・女性部会

㊤花束を渡す佐川会長㊧と野村信託銀の眞保社長㊨　下熱心に聴講する女性経営者ら

東京産業人クラブ女性部会（佐川八重子会長＝桜ゴルフ社長）は7月16日、KKRホテル東京（東京都千代田区）で7月例会を開いた。銀行業界初の女性社長に就任した野村信託銀行の眞保智絵社長が「野村グループのビジネスと野村信託銀行について」をテーマに講演し、野村グループのダイバーシティーなどについて説明した。佐川会長は「安倍晋三政権の経済政策『アベノミクス』の効果を実感している中小企業は少ない。ただ今日集まった経営者は実力で勝ち続けてきた人々。政治に頼ることなく、景気に左右されることなく、技術やサービスの質を高めて勝ち抜いてほしい」と強調した。女性経営者ら約60人が参加した。

講演で眞保社長は安倍政権が6月末に閣議決定した「改訂版日本再興戦略」に触れて「政府が女性活躍推進や法人税減税、民需主導の成長に向けた経済構造改革などの施策をすべて実行したら、国内総生産（GDP）を0・75㌫押し上げる効果がある」との見解を示した。またダイバーシティー施策では、多様性についての理解を深めるため、部門の垣根を越えた交流会を開催する野村グループの取り組みを紹介した。

講演後、会員から「女性リーダーとして特に気を注意していることは何か」、「仕事をまっとうした上で、家庭を円満にする秘訣は何か」といった質問が飛び交った。眞保社長は「リーダーシップに性別は関係ない。信頼を得るためには判断プロセスを説明して納得してもらった上で業務を進めることが必要」と答えた。家庭円満の秘訣については「相手を選ぶ段階から気をつけること」と笑いを誘った。

佐川会長から眞保社長にバラの花束が贈られると、会場から拍手がわき起こった。

新会長に村松氏

福島産業人クラブ 定時総会を開催

福島産業人クラブ（立石吉識会長＝福島製作所相談役）は6月23日、福島市内のホテルで「2014年度定時総会＆記念講演会」を開き、新会長に北芝電機の村松謙一社長を選任した。村松新会長は「福島県は再生可能エネルギー産業などの集積促進を重点プロジェクトに掲げて推進している。会員の皆さんが率先して新たなモノづくり分野に挑戦し、発展することが福島の復興につながる」と意欲を示した（写真）。

総会では13年度事業報告・収支決算報告、14年度事業計画案・収支予算案、役員改選の3議案を審議し、承認された。また記念講演会ではジャーナリストの永井隆氏が「復権～日本のモノづくり・現場から」をテーマに講演。「変革の時ほど深く参入するチャンスがある」と、業界を取り巻く環境の変化に柔軟に対応し、果敢に挑戦していく姿勢が重要だと強調した。会員ら約50人が参加した。

交流会では小林香福島市長や中島健至日銀福島支店長、内池浩福島県中小企業団体中央会会長ら産学官金からの来賓も交えて和やかな雰囲気の中、明るさが見えてきた景況などを話題に情報交換した。

雪ヶ谷精密大越氏 復興の軌跡で講演 宮城産業人クラブ

宮城産業人クラブ（工藤治夫会長＝工藤電機会長）は6月30日、ホテルメトロポリタン仙台（仙台市青葉区）で「2014年度定時総会＆記念講演会」を開いた。13年度事業報告・収支決算、14年度事業計画・収支予算案を審議し、承認された。

総会後、雪ヶ谷精密工業の大越英樹統括部長（写真）が「復興から新たなステージへ～雪ヶ谷精密工業の軌跡」をテーマに講演し、東日本大震災の被災で生産財をすべてなくすという最悪の状況から挫折せずに再生できたのは「社長の再建への強い決意と納入先、社員との厚い信頼関係。そしてたくさんの方々との出会いと温かい励ましの言葉が背中を押してくれた」と振り返った。約50人が参加した。

懇親会には三石安産業技術総合研究所東北センター所長、伊藤努宮城県産業技術総合センター所長ら産学官関係者も駆け付け、大山隆一副会長（通研電気工業社長）の中締めまで交流を深めた。

ニッチトップ企業の戦略テーマに講演会 千葉産業人クラブ

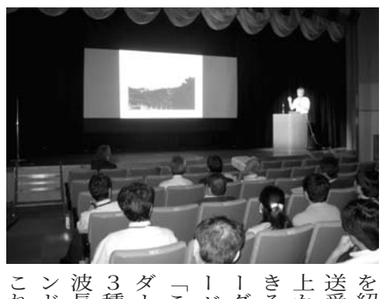
千葉産業人クラブ（白鳥豊会長＝白鳥製薬社長）は6月25日、三井ガーデンホテル千葉（千葉市中央区）で「2014年度定時総会＆記念講演会」を開いた（写真）。13年度事業報告・収支決算、14年度事業計画・収支予算案などを審議し、承認された。

総会の冒頭、白鳥会長は「日本経済は消費増税の影響こそ想定の範囲内だったものの、日韓・日中関係の冷え込みなどのリスクを抱えている」とした上で、「日本経済が活力を取り戻すため、クラブを活用してほしい」と呼びかけた。講演会では細谷祐二経済産業省地域経済産業グループ地域政策研究官が「グローバル・ニッチトップ企業の戦略」をテーマに、ニッチトップ企業の共通点などを紹介し、約90人の参加者が聴講した。

懇親会では来賓の諸橋省明千葉県副知事が「これからも県の産業界をリードしてほしい」とあいさつ。和気あいあいと情報交換した。

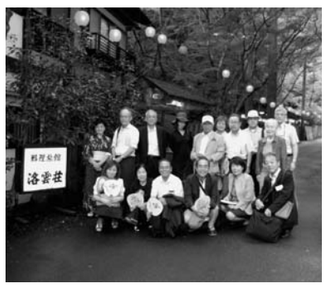
観測衛星「だいち」 JAXA島田氏講演 埼玉産業人クラブ・TDU産学交流会

埼玉産業人クラブ・TDU産学交流会（佐藤達雄会長＝アーベルソフト会長）は6月30日、オルモ（坂戸市）で、島田政信宇宙航空研究開発機構（JAXA）地球観測研究センター研究領域統括による講演会「『だいち』による地球観測と『だいち2号』への期待―地球環境の監視／レーダーによる監視」（写真）を開催した。東京電機大学（TDU）、坂戸市との共催で、学生を含めて53人が聴講した。



島田氏は陸域観測衛星「だいち」の成果を総括した上で、5月に打ち上げられた「だいち2号」を紹介。また電波の送受信によって雲の上から地上を撮影できるタイプの搭載レーダー「合成開口レーダー」について「このタイプのレーダーは電波の波長が3種類あり、日本は波長23㌢㍍のLバンドを使っている。これは木の下に隠れた戦車なども撮影できる。他の波長に比べて透過率に優れている」と解説した。さらに6月19日に大地2号で撮影した地上画像などを示し、過去に撮影した陸地画像を年代ごとに比較して森林減少の様子などを説明した。

講演後、TDU産学交流会、TDU、坂戸市役所の関係者らで懇親会を開催。冒頭、TDUの柏崎尚也理工学部長が「当理工学部もいずれは人工衛星を打ち上げたい希望を持っている」などとあいさつ。和やかな雰囲気の中、情報交換した。



川魚・山菜に舌鼓

大阪産業人クラブ女性部会（部会長岩崎佑子＝岩崎企画社長）は7月23日、京都上賀茂の洛雲荘で納涼川床交流会を開いた。地下鉄北山駅から銘木北山杉の美林を30分ほど入った京都の奥座敷ともいえる鴨川の源流、雲ケ畑にひっそりと佇（たたず）む料理旅館で、川魚料理と山菜、お酒に舌鼓を打って盛り上がった。四条河原町などの川床とは異なる趣があり、名古屋産業人クラブから参加した会員も満足していた。帰路に世界文化遺産の上賀茂神社を参拝し、京都を満喫して解散した。

京都上賀茂で納涼川床交流会
大阪・女性部会

ゴルフ大会 吉田氏が優勝 山形産業人クラブ

山形産業人クラブ（松村英一会長＝エムテックスマツムラ会長）は6月18日、天童カントリークラブ（山形県天童市）で2014年度第1回ゴルフ大会を開いた。18ホールズストロークプレーハンデ戦で熱戦を繰り広げた結果、ヨシダプランニング社長の吉田幸司氏（写真左）がグロス83、ネット81・0で優勝した。ベストグロス賞も手にした吉田氏は「みなさんの励ましで優勝することができました」と喜びをかみしめた。また初出場の高橋勝見氏がグロス89、ネット77・0で準優勝。初出場のため、山形産業人クラブゴルフ会のルールにより、吉田氏が優勝となった。